

## 阪神甲子園球場リニューアル後のツタの再生について

阪神甲子園球場は、より安全・快適なスタジアムを目指して、全面的なリニューアル工事を、平成19(2007)年野球シーズン終了直後から実施する予定(球場本体については、平成21(2009)年3月に完成予定)ですが、リニューアル工事に伴って実施する、現球場の外壁を覆っているツタの除去に関して、内野及び一塁アルプス外壁部分については、平成18(2006)年野球シーズン終了後より伐採することとしました。

なお「ツタ」は、阪神甲子園球場の代名詞の一つで、永年にわたって多くの方々に親しまれているものであり、「歴史と伝統の継承」というリニューアルコンセプトにそって、リニューアル完了後も球場に再生・再現させる予定ですが、その方法については、当初から検討していた、既存のツタの種子から育成した苗木の植樹とともに、今回新たに既存のツタの再植樹と、平成12(2000)年に全国の日本高等学校野球連盟加盟校に贈られ、各校で育成されているツタを移植する方法を採用することとしました。

ツタの再生方法については以下のとおりです。

※平成17(2005)年11月7日「阪神甲子園球場リニューアル計画基本構想」を発表

※平成18(2006)年7月10日「球場本体のリニューアル工事の工期短縮」を発表

### 【ツタの再生方法】

#### 1 別の養生地で育てた苗を植樹

球場既存のツタから種子を採取し、現在、奈良県及び和歌山県の養生地で育成中の苗木を、リニューアル完了後の球場外壁に植樹します。

#### 2 既存ツタの再植樹

現在球場において、既存のツタの根を切断し根回しを行っています。新たな根が生えた株を養生地で育成し、リニューアル完了後の球場外壁に再植樹します。

#### 3 日本高等学校野球連盟加盟校からの里帰り

平成12(2000)年に、20世紀最後の全国高等学校野球選手権大会(第82回大会)の地方大会開催に先立ち、日本高等学校野球連盟、朝日新聞社及び阪神甲子園球場の三者から、全国の加盟校4,170校に、阪神甲子園球場のツタの苗木が贈られました。

現在、各校で育成されているツタを、「里帰り」としてリニューアル完了後の球場外壁に移植します。

以上

## (参考)

### 「ツタの里帰り」について

阪神甲子園球場は、「歴史と伝統の継承」というコンセプトでリニューアル工事を進める予定です。「ツタ」については、球場の代名詞の一つとして、永年にわたり多くの方々に親しまれているものであり、リニューアル完了後も、球場に再現させる計画を進めています。

新しくなった同球場へ、平成 12(2000)年に、日本高等学校野球連盟、朝日新聞社及び阪神甲子園球場の三者から全国の加盟校 4,170 校に贈られ、各校ではぐくまれているツタに「里帰り」してもらうことで、球児をはじめ各校とその地元の方々の思いを受け止め、未来へ引き継いでいきたいと思えます。

### 【「ツタの里帰り」イベントの実施概要】

平成 20(2008)年 6 月中旬に、日本高等学校野球連盟加盟校からツタの寄贈を受け、阪神甲子園球場の外壁に「里帰り」させるイベントを実施します。

イベントでは、寄贈を受けたツタの記念植樹、および寄贈高等学校名が記された記念銘板の除幕式を行い、また、寄贈いただいた各高等学校野球部には感謝状、記念品及び新しいツタの苗木を贈ります。

以 上